

2025年度（令和7年度）学校評価自己評価表

城南中学校区	校番 38	福山市立多治米小学校
最終更新日		2026年（令和8年）2月27日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	課題発見する力（課題を見つける） 対話する力（コミュニケーション） 認める態度（人としての思いやり）
- 児童生徒が授業や特別活動の各場面で自分の考えていることや自分の頑張っていることを表現する場があり、一人一人が認められている。 - 児童生徒が主体的に学びに向かうように教師が熱心にサポートしている。 - 具体的な評価指標を検討し、家庭や地域と連携を図りながら効果的に取り組んでいくとよい。	- 友達と話し合ったり学び合ったりすることに楽しさを感じている。 - 縦割り班活動や委員会活動では、児童生徒の企画立案により異学年交流をすることで、自己肯定感が高まっている。 - 知識や技能の習得が十分ではなく、特に言葉や数の理解と表現することに課題がある。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	- 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる児童生徒 - 様々な課題を自ら求め、お互いの意見を尊重しながら対話による課題解決を図る主体性を持つ児童生徒
		中学校区として統一した取組等	- 学習指導要領に立ち返り、知識技能の定着にこだわった授業づくりを各学校で実践し、協議を継続する。 - 各校での研修にお互い参加し合い、事後協議等において共通課題に対する各校の取組や状況を交流する。

III 自 校

ミッション		育成する力 資質・能力		問題発見解決力（自己決定） ・対話する力（コミュニケーション） ・認める態度（思いやり）	
子どもと共に学びを創る学校		めざす 子ども像	課	・明確な目標を立て、目標に迫る方法を自ら考え、最後まで粘り強くやり抜くことができる子	
・自ら考え判断し、友達と共に学び合う子を育成する。 ・自分も友達も大切に育てる。 ・チャレンジし続ける子を育成する			対	・自分の意見を持ち、根拠をもって相手に伝えることができる。 ・自分の考えと比べながら相手の話を聴くことができる。 ・自分に自信を持ち、相手の思いや立場を尊重し、互いに高め合うことができる。	
			認		
学校教育目標					
自ら考え学び合い 挑戦し続ける子					
現状					
〈児童〉					
・行事などの実行委員会や児童会・委員会活動を充実させ、子どもたちと共に学校を創ることができ始めている。					
・一人一人の良さを認め合える雰囲気づくりや場の設定を引き続き行っていく必要がある。					
〈授業〉					
・全国学力調査の結果から見てきた全ての教科等における学習の基盤である数や言葉にこだわった授業づくりを行ってきた。					
・教材研究の質をさらに上げ目の前の児童の実態を把握・分析して、教師としての役割を見出し、共に授業を創り上げていく必要がある					
				テーマ	一人一人の学びを促す教師の役割
		研究	内容等	言葉と数にこだわった子どもと共に創りだす授業を目指して	
		めざす授業の姿		・付けたい力を明確にして一人一人に確実に力をつける授業 ・「そもそもこれってどういうこと?」「～かな?」と全ての児童が学びの土台にのっている授業 ・体験的な学びのある授業 ・自分の考えを持ち、根拠をもって話し合う授業	

Ⅳ 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立多治米小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力を入 れ評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力を入 れ評価	達成 評価	総合 評価	改善方策
1	主体的・ 対話的に 共に学び合 う力の育成	★	新規	疑問を大切 にし、ことば と数の意味 にこだわる 学び合いの 授業を子ども と共に創る。	- 研究内容を共有し 日々の授業や授業 研究に対して、み んなで教材研究を する。 - 学習指導要領をも とに学ぶべき内容 を明確にしたり、 児童がつまづくポ イントや教師児童 ともにこだわるべ き言葉や数につい て明らかにしたり する。 - 児童の発言やつぶ やきを聞き、ひろ い、つなぎながら みんなで授業を創 る。 - ことばや数の意味理 解を図るために読書 と計算に継続して取 り組む。	①児童アンケート 「〇〇ってどういう意味？ へえ～と考えながら学び進 めることができましたか。」 肯定的評価80%以上 ②児童アンケート 友達の考えを聞いて、「へえ ～なるほどな」と思ったこと がありますか。肯定的評価8 0%以上 ③教職員アンケート 「〇〇ってどういう意味？ という言葉を使って授業し ているか。」 ④教職員アンケート 「言葉と数を大切にした単 元づくりを行っているか。」 肯定的評価80%以上 ⑤児童アンケート 「集中して読書や計算に取 り組むことができる」 肯定的評価80%以上	- 授業研に向けて、全員で 1つの授業の教材研究 を行い、参観することで 研究の方向性や内容を 共有することができた。 - 学習指導要領をもとに教 材研究を行うことで、こ だわるべき言葉や数を 明確にして授業を創る ことができた。 - 児童の発言を拾いなが ら、授業を創ることがで きた。 ①肯定的評価：89% ②肯定的評価：91% ③肯定的評価：100% ④肯定的評価：80% ・朝学習タイムを設定し、 読書や計算に取り組む ことができた。 ⑤肯定的評価86%	4	3	- 授業研で学んだことを自 身の授業実践につなげて いき、学年や全体で実践を 交流していく。 - 学力調査分析のもと「書け ない理由は何か」など、児 童のつまづくポイントを 明らかにしていく。算数科 の授業では、課題解決に向 けて見通しを持たせる。自 力解決の際に、式や図、算 数用語を使って表現する 時間を確保し、書く力を高 めていく。 - 児童がつぶやいた考えや 意見を教師がコーディネ ートしながら、深い学びに していく。 - 各学年で基礎学力の向上 やことばの意味理解がで きるようになるための取 組を交流し、自身の学年の 参考にしていく。	- 全員で学習指導要領を もとに教材研究をし、自 身の授業実践に生かす ことができた。 - 学習指導要領や他社の 教科書をもとに学ぶべ き内容をつかみ、比較し ながら教材研究を行う ことで、こだわるべき言 葉や数を明確にして授 業を創ることができた。 - また、「書くこと」を意 識して授業づくりに取 り組むことができた。 ・児童のつぶやきや発言 を拾いながら、全員で授 業を創ることができた。 ①肯定的評価：92% ②肯定的評価：91% ③肯定的評価：100% ④肯定的評価：95% ・学期初めに朝学習の内 容を学年で話し合っ て準備を行い、読書や計算 に取り組むことができ た。 ⑤肯定的評価：86%	4	4	4	・「書く」につい て、系統性を 大切にしながら、 取り組んでいく。 ・朝学習におい て、確実な学 力定着を図れ るよう、内容 や方法を見直 していく必要 がある。
1	自分や友達 を大切にす る児童の育 成			新規	児童自らが、 気づき、考 え、友達との 関わりを大切 にする児童を 育成する。 (学級会活動・ 児童会活動)	- 各委員会で児童が 主体となり、友達 との関わりの中で 委員会活動を進め る。 - 学級会活動や休憩時 間に児童同士の関わり をもつ場を2週間に1回以上設定する。	・児童アンケート 「友達を大切にしてい る。」 「友達と一緒に学習 したり遊んだりする ことが楽しい。」 肯定的評価80%以上	・1学期は生活改善委員 会、体育委員会、美化・ 掲示委員会の発表を行 い、児童が活躍できる 場を設定した。 ①肯定的評価97% ・休憩時間を活用して、 学級レク等を行い、 児童同士の関わりを 持つ場を1週間に1 回程度設定した。 ②肯定的評価96%	3	3	・委員会で児童が学校を よりよくしていく工夫 を考えさせ、継続して 年間1回以上、委員会 発表を行い、児童が活 躍できる場を設定す る。 ・学級会等の中で、友達と の関わり方や言葉の使 い方を話し合う場を設 定する。	・2学期は保健委員会、図 書委員会、園芸委員会 の発表を行い、児童が活 躍できる場を設定した。 ①肯定的評価97% ・学級会や道徳などの中 で、友達と関わる良さや より良い関係づくりに ついて、個人で考えたり話 し合い活動を行ったりし た。 ②肯定的評価95%	3	3	4

					・学級活動等の時間を中心に、一人一人のよさを認め合える時間・場を設定する。	・児童アンケート 「自分にはよいところがある」 肯定的評価80%以上			・帰りの会や、授業の振り返り場面で、自分や友達の良さを認め合う時間を設定した。 肯定的評価78%			・縦割り掃除の振り返りの際に、班長に頑張っていた児童を発表させ、良さを認め合える場を設定する。また、2か月ごとに教職員が児童の頑張りを共有する。	・帰りの会や、授業の振り返り場面で、自分や友達の良さを認め合う時間を設定した。 肯定的評価79%			
1	自分の心や体に関心をもち、運動したり生活習慣を見直したりする児童の育成	新規	自分の生活や体力を振り返り、自己の課題について改善しようとする力を育む。	・運動する機会を増やし、体力向上の環境を整えるために、2ヶ月に1回以上取組強化週間を設ける。 ・起床時刻を自分で決めて、朝ご飯を食べる等1日の生活リズムを整えるために、学期に1回取組強化週間を設ける。	・振り返りカード 取組強化週間において、「平日5日のうち4日以上運動をした」児童が85%以上。 ・振り返りカード 取組強化週間において、「起きる時刻を守る」「朝食を食べる」の項目が、平日5日のうち4日以上達成できた児童が85%以上。	・1学期は、取組強化週間は6月に1回設けたが、7月に入ってから熱中症の心配があり、2回目を実施できなかった。 肯定的評価66% ・生活リズムに対する意識を高めるために「早寝・早起き・朝ごはんウィーク」を設定した。児童や保護者を対象にした講師による講話により、生活習慣を見直すきっかけ作りを行った。また、保護者とともに考える機会を9月の参観日に設定した。 肯定的評価78% (起きる時刻66%、朝食90%)	2	2	・天候や行事等を考慮して強化週間を設定する。(10月中旬、11月中旬)委員会や児童会の取組と連携する。 ・起きる時刻を守るように、生活リズムを整えることのよさや、就寝前のスマホやタブレットの使用を抑える必要性に気づかせたりするような指導を行う。保護者同士で交流する時間を設定する。(各クラスの保健指導、食育指導、学級懇談会)	・体育委員会のドッジボール大会やビンゴカードと連動して強化週間を設定し、取り組むことができた。 肯定的評価89% ・学級懇談会では、生活習慣アンケートの結果をもとに朝食についての悩み等の意見交流を行った。また、給食試食会では、起床時刻、就寝時刻が決まっている児童は生活リズムが整っていることを保護者に伝えて、生活リズムについて家庭で話をしてもらった。 肯定的評価85% (起きる時刻73% 朝食96%)	2	3	3	・委員会や児童会と連携した取り組みを継続し、運動する意識を高め、運動の習慣化を図る。 ・学活の時間に、児童に「起きる時刻」を設定させる。また、保護者にアンケート結果とともに、学校の取組を発信し、家庭での協力を求める。		
2	教職員が自らの個性を発揮し、笑顔で勤務できる学校の実現	継続	教職員が自らの強みや個性を理解し、自ら目標を立て挑戦する。	・業績評価に「One Smile」を設定し、自らの強みや個性を高める目標を自ら設定してPDCAサイクルを進める。 ・「One Smile」について交流する場を設け、互いに認め合い応援しながら挑戦を推進する。 ・それぞれの強みが組織の強みとなるよう研修の場を設ける。	・教職員アンケート 「仕事にやりがいを感じている」 肯定的評価80%以上 ・「One Smile 交流会や研修会」を年3回以上実施。	・やりがいを持っている教員の割合は90.5%であった。 ・夏季休業中に、研修会を2回実施した。また、交流会では、取組の様子を聞き合い、それぞれの挑戦を応援し合うことができた。	3	3	・仕事にやりがいを感じていくために、2学期にはグループごとにグループの誰かが講師となり研修を行う。教材研究や授業の充実に目を向けていくようにする。 ・それぞれの取組状況を把握し、研修会を適時開催する。より多くの人に知ってもらえ、認めてもらえる場を設定していく。10月中旬には研修の取組を地域行事で発表する。	・仕事にやりがいを感じている教員の割合は84.2%であった。若干減少したが、多くの教職員がやりがいをもちながら業務にあたれている。 ・「One Smile」で、職員の提案による音楽コンサートを実施したり、授業実践をしたりした。また、冬季休業中に交流会を1回実施した。	3	3	4	・グループで、年1回は研修会を実施できるよう計画を立てる。 ・学期ごとに交流会を開催し、取組を評価し合ったり応援し合ったりできる会を定例化する。		

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。